



写真／小林邦寿

30 特集

2STYLE

理由あって、2コ持ち。

ついつい選びがちな「マルチバーバス」。
 はっきり言おう、ひとつで何にでもなんてそんなうまい話はない！
 特にアウトドアのギア選びに万能選手はいないと思って間違いない。
 目的に対してまっすぐに作られたモノこそ、フィールドで活躍し、長い付き合いを約束してくれる。
 しかしそれは反面、ツブシのきかないモノ選びでもある。そこで登場するのがサブ、という考え方。
 大きいモノと小さいモノ。ハードとソフト。両極端な選択をふたつ持つことで、行動範囲はグッと広がるはずだ。
 ひとつですべてを賄おうとするから無理がある。
 今回、2スタイルという選択をバッグとシューズで展開してみた。
 迷った時の「2スタイル」。ここはひとつ、思い切ったモノ選びをしていただきたい。

(モノ・スタイル・アウトドア編集部)

Contents.1

WORLD BOOK
 ワールド・ムック940

monoSTYLE
 アウトドア No.12

© WORLD PHOTO PRESS 2012
 表紙写真：猪俣慎吾 宮坂政邦 (WPP)
 表紙デザイン：フェイヴァリット・グラフィックス
 DTP：ベイス

編集部より◎商品は取扱説明書に従って正しく使用して下さい。掲載価格は消費税込の総額表示です。実勢価格は編集部調べの市場価格です。

34 PART1 2STYLE【Bag篇】

- 34 最大容量150Lオーバー! 旅のMAXIMUMスタイル
- 36 まず間違いない 30~40L&パッカブル、防水バッグ
- 38 山の2STYLE ヒップバック、ポーチを+(プラス)
- 40 私の「2STYLE」
- 41 最強のセカンド
- 42 親子2STYLE
- 44 クルマ、Run&Bike 2STYLE

70 PART2 2STYLE【Shoes篇】

- 70 「履き替えというスイッチ」
- 42 HARD&RELAX 2STYLE
- 74 私の「2STYLE」
- 75 Driveな2STYLE
- 76 夏の2STYLE
- 78 攻めの1足
- 80 アプローチシューズのツボ
- 82 「素足ヨロコブ」



Contents.2

- 07 From Editor's
- 08 旅するレンズ
●水本俊也
- 11 STAND BY!
- 19 富士山ぐるり、160キロ
UTMF (ULTRA TRAIL Mt.FUJI)
- 25 THE MILITARY LINE
●Fujiwara
- 45 「軽快であれ」
MOUNTAIN HARDWEAR
- 50 Come On! アイデア
「技あり、アウトドア ユニークGOODS」
- 56 「特化型登山靴」 アディダス terrex
- 58 歩き始め指南「はじめの一步」
- 66 ^{カブ}CAB+^{キャンプ}CAMP=^{キャンプ}CAMB お気軽「CAMB STYLE」
●イラスト:中山 蛙
- 68 山の教科書
「トレッキングポールのメンテナンス」
- 84 Emergency Note
「遭難した!」その時するべきこと
- 88 アウトドアをクリエイイトする5人のリアル
- 92 連載:土間から広がるライフスタイル
- 93 インフォメーション
- 94 新製品情報
- 96 読者プレゼント
- 98 新連載:Driving Lonely
アメリカ本土 全48州の旅
●文・高橋庄太郎 絵・河合 寛
- 108 お山のSOS
「だからハイドレーション」水分補給を科学する
- 110 お山で反省会(編集後記)
- 112 次号予告



写真 / 芦葉貴史



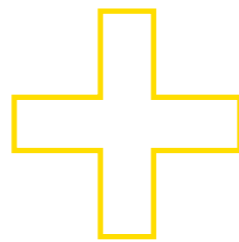
コロニア/チャスキサンダル

価格3045円 ㊤D

持ち運びに便利なミニマルデザイン。調節機能付きのレースを使った2通りのスタイルを楽しめる。アウトソールはグリップ力が高く水辺のフィールドにも対応。重量:138g (27cm・片足)



ヒトに動物としてもともと備わった機能のなかでも、「歩行」はもっとも基本的な運動のひとつだ。もうこれだけで靴の重要性がわかっていくというものだ。いまベアフットシューズ（裸足感覚の靴）が流行っているのも同じことで、「歩行」を重要だと思うからこそ生まれた視点を変えたアプローチだ。合わない靴を履いていれば靴ずれが起きたり、足が痛くなったりするが、さらに路面に応じてシューズを履き替えればより快適になる。不整地を、重い荷物を背負って歩くときの靴、キャンプサイトでそんなに動く必要がなく、リラックスしたい靴、濡れを気にせず水辺で遊びたいときの靴。それぞれのシチュエーションでのベストが2コ持ちならば実現できる。



ラ・スボルティバ/バミール GTX
価格4万2000円 ㊤C

高級登山靴の代名詞的素材ベルワングァー社のワックスレザーに、ピンテージ仕上げを施した重厚感溢れる美しい一足。広めのラストを採用。衝撃吸収性に優れる。重量:875g (EU42・片足)

理想の両極端

PART.2

SHOES

ワケ
理由あつて

空
母
と
艦
載
機

BAG

PART.1

バタゴニア/
ライトウェイト・トラベル・ヒップ・バック
価格5250円 ㊤B

ポケットに本体を収納できるバックプル仕様。メインコンパートメントはサングラスや小型カメラが入るサイズ。内ポケットは貴重品やパスポートの収納に最適だ。重量:187g



5L



マックバック/
グリセード クラシック
価格3万8850円 ㊤A

丈夫で耐水性に優れたアステック製。荷重が分散するハーネスで荷物が重くても快適。両サイドにボトル用ポケットを装備。ボトムは耐水性と耐久性を高めた二重構造。重量:3050g

70L



すべての装備を運ぶベースとなるバッグを空母と仮定すれば、ふたつ目のバッグは艦載機。ゼロ戦のような高い機動力が必要になるシーンもあるだろう。その必要性をもっとも実感してもらえと思うのが、サブザックのアタックザックとしての活用だ。山小屋やテント場に荷物が入ったデカイバックパックを置き、水とかカメラとか行動食とか雨具とか、必要になりそうなものだけを入れたサブザックで軽快に頂上へ向かう。移動の種類が変わるとき、スムーズに次の行動に移れるようにサポートしてくれるのがサブザックという存在なのだ。心待ちにしていたアウトドア遊びでストレスをわざわざ抱え込む必要なんてない。バッグの2コ持ちで快適を手に入れよう。

2コ持ち!!!



右列上から①フィット感に優れたスマートなフォルム。重量：136g、2L、コロムビア「ラグレージングヒップバッグ」価格2730円 ②D、③小ぶりながら4つのポケットを装備。重量：140g、2L、マムート「クラシックバムバッグ」価格2940円 ④Q、⑤耐久性と耐候性に優れたアステック製。エイジングも楽しめた。重量：200g、7L、マックバック「モジュール」価格4725円 ⑥A、⑦体のラインにフィットするミニマルサイズ。引き裂き強度と耐摩耗性に優れたコーデュラナイロン製。重量：100g、1.4L、グラナイトギア「ヒップウイング」価格2940円 ⑧R、⑨味のあるヘンプ混ポリエステル素材。細身のシルエット。重量：175g、2.5L、グレゴリー「テールランナー」価格6090円 ⑩J、⑪レトロな表情が魅力。背面にジッパーポケットを装備。重量：160g、2L、ミレー「180クラシック マルチヒップバッグ」価格3675円 ⑫F、⑬ポップなカラーリングが魅力。重量：230g、3.6L、グレゴリー「キッズ テールメイト」価格6615円 ⑭J、⑮2つのフロントポケットを装備。耐水性を備える。重量：150g、0.5L、ミレー「キラバチ」価格2940円 ⑯F、⑰大容量が魅力。アルミフレーム内蔵の背面パネルにより安定感に優れる。ストラップが付属し、ショルダーとしても使える。重量：780g、9L、ダナ デザイン「ガーラ」価格1万1550円 ⑱M、⑲通気性と透水性に優れた肌触りの良い背面パネル。重量：220g、アディダス「ABP200」価格3045円 ⑳N、㉑同社のザックに取り付けできる。ヘビーデューティな作り。重量：350g、4L、クレットアルムーセン「フィマファン2.0」価格1万4700円 ㉒K

大型のバックパックとヒップ／ウエストバッグの2コ持ちというスタイル。バックパッキングやトレッキング、電車で行くキャンプなどのシーンが思い浮かぶ。そういったシチュエーションですぐに取り出したいアイテムといえばなんだろう？ カメラ、地図、行動食、コンパス、携帯、サイフなど。ヒップ／ウエストバッグにはそれらを入れる。持ち方は、肩にかけて体の前に回しても、腰に付けても、中身がすぐに取り出せるならどうだっというのではないか。

ヒップ／ウエストバッグとひとくちに言っても容量のバリエーションの幅は広い。基本的に容量が大きくなれば収納力も高くなる。ポケットがたくさんあれば中身をすっきり整理できて便利だ。ここで紹介しているアイテムだけ見ても、0.5Lから9Lまで、じつにさまざまな大きさがある。容量が小さいもののほうが行動中に身に付けていてストレスが少ない。これはフィット感の問題ではなく、大きさや重さが行動中は邪魔になるという話だ。容量の大きなものは、バックパックに付けるなど使いやすいつ工が必要だろう。クレットアルムーセンの「フィマファン2.0」には、もとよりそういった使いやすいつ意匠が施されている。マックバックの「モジュール」の背面にはバックルとストラップが設置されており、サイドポケットとして大型のバックパックに取り付けることができる。大型のヒップ／ウエストバッグは、大型のバックパックの収納力をより高くする外付けポケットとしても活躍する。

ヒップバッグをプラス



GREGORY

グレゴリー/バルトロ65
価格3万5700円 ㉓J

65L

バックが人体の動きに合わせ、流れるようにフィットする背面サスペンション技術を採用。ウエストベルトの荷重移動パネルは左右別々に角度調節でき、腰にフィット。フロント、両サイドに大きなポケットを装備。重量：2550g

macpac

マックバック/グリースード クラシック
価格3万8850円 ㉔A

70L

丈夫で耐候性に優れたアステック製。腰と肩に荷重を分散させ、荷物が重くても快適。フロントに十分な容量をもつポケット。両サイドにはボトル用ポケットも装備。ボトムは防水性と耐久性の高い二重構造。重量：3050g

EXPED

エクスペド/バックカントリー-55
価格3万4500円 ㉕K

55L

フロントパネルが大きく開き、メインコンパートメントにアクセスできる。シームシーリング、止水ジッパーの採用で防水性能も高い。ソフトなハーネスと、人間工学に基づくヒップベルトで快適な背負い心地。重量：1400g

BOLL

ボル/
ファントム75+25
価格2万7300円 ㉖O

75L
+25L

背面長の調節が容易で、脱着可能なヒップベルトやスキー&ギアループ、ボール/ピッケルホルダーも装備。内部は仕切りによる2気室構造。雨蓋は取り外せヒップバッグとして使える。軽さも魅力だ。レインカバー付き。重量：2500g

GRANITE GEAR

グラナイトギア/
クラウン V.C.60
価格2万3100円 ㉗R

60L

雨蓋を省略したロールトップ式。標準で1kgを切る超軽量モデル。フレームを取り外せばさらに150gの軽量化が可能だ。空気の流れを促進するモールドタイプの背面システムを採用。オプションで雨蓋を付けることも可能。重量：960g

OSPREY

オスプレー/アルゴン70
価格3万3600円 ㉘I

70L

2〜3日の縦走やバックパッキングに最適な1〜2気室切り替えバック。ヒップベルトは熱成形できカスタムフィットに対応。雨蓋とハイドレーションポケットは取り外せ、それぞれ単独で使用可能。アタックザック要らず。重量：2760g

mont-bell

モンベル/スーパーエクスペディションバック90
価格1万9000円 ㉙G

90L

驚きの軽量化を達成。高さを抑えた絶妙な重量バランスで、大容量を感じさせない安定感のある背負い心地を実現。フロントパネルがしずくに大きく開き、メインコンパートメントにアクセスできてとても便利。重量：1970g

境界を越えるとき、靴を替えよう。
履き心地は絶対的なものではない。
路面によって左右される、というか
感覚なのだから相対的なのだ。
履き替えというスイッチが
快適さという感覚を持続させる。

写真／小林邦寿 油科康司(WPP) 青木健格(WPP) 宮坂政邦(WPP)
文 片山貴晴 渡部 恵 イラスト／スズキ サトル スタイリング／近澤一雅

SHOES

2STYLE

PART.2

履き替えというスイッチ

が変われば、いつも同じ靴が同じ
快適さをもたらすことにはならな
いだらう。自分を取り巻く環境が
変化したときが靴を履き替えるタ
イミングだ。それまでと同じ快適
さを持続させるために、履き替え
というスイッチを入れる。

本当は靴など履かないほうがいい。足に合わない靴を履いている人がどれほど多いことか。靴文化の欧州や米国などでは、人は歯医者やサロンのへ行くように足病医へ通うという。それほど足の状態に気を使っている、言いかえればそれだけ靴が足に大きな負担をかけていることを知っている。

重い荷物を背負って何時間も歩き続けなければいけない、あるいは岩や木の根、硬い地面からの突き上げを気にせず走りたい、あるいはほとんど取っ掛かりのないような岩壁を登るなど、アウトドアアクティビティではだいたい普段の生活でお目にかからない特殊な靴が必要になる。日常生活にはない運動を行ない、体全体に強い負荷をかけるのだから、その体を支える足の負担やストレスは相当なものだ。だからシューズの2コ持ちのテーマのひとつはリラックス。硬い壁に包まれ、湿気と熱気で蒸された足を解放してやる。

また、そういった特殊な靴が活躍するシーンはかなり限定されている。路面であったり、荷物の重さであったり、シチュエーション



La Sportiva

ラ・スホルティバ/デルタ GTX
価格2万9400円 @A

重量と屈曲性の絶妙なバランスが快適な歩行を約束。冬山以外の3シーズンで活躍し、それでいて3万円以下という低価格を実現。足入れ部分とタンクの構造はフィット感に優れ、まるでローカットシューズのような足首の自由度を誇る。重量：600g (EU42・片足)



mont-bell

モンベル/スリッポンサンダル
価格2000円 @B

輪になった鼻緒が足の甲をしっかりホールド。足裏に沿う立体的で柔らかなフットベッドと相まって歩行時にも足裏にフィット。かかとの浮き上がりを防ぎ、バタバタ音を解消したサンダルだ。全6色が揃う豊富なカラバリも魅力。重量：145g (Mサイズ・片足)



あなたの2コ持ち 教えてください!

写真/小林邦寿 文/渡部恵

Columbia
PR
久野繭記さん



サンダルは、いつでもさっ
とはけるように、ヒモにカ
ラビナを通してザックにぶ
ら下げている。

Sub Shoes
Columbia
チャスキ
サンダル
必ず持ち歩くとい
うもう1つのシュ
ーズが、このサン
ダル。テント泊の
時や、川辺で休憩
する際に活躍す
る。「ソールとヒ
モが変えられるの
で、自分色にカス
タマイズできるの
も魅力です」

Main Shoes
Columbia
マドルガピーク3 オムニテック
久野さんが普段、山歩きのお供として愛用しているのが
こちら。軽量で、足入れ部分にはやわらかなクッション
がついていることにより、足へのストレスが少なくはき
やすいのだとか。

コロンビアでPRとして毎日
大忙しの久野さんは、一年ほ
ど前から登山を始めたという登山
ビギナー。山へ出かける時には、必
ずサブシューズを持って行く。「例
えば、テント泊はもちろんですが、
ちよっと休憩する時などにもう一
足あると便利だなと思って、持ち
歩くようにしました。トレックの
途中で川を見つけると、はきかえ
て入ってみたりします。2個持ち
することで、楽しみの幅が広がっ
たように思います」と久野さん。

山だけではなく、野外フェスな
ども頻繁に足を運ぶが、その際
にも必ずシューズは2足用意。移
動する時には、メインのシューズ
をはずして、会場でライブを鑑賞す
る時にサンダルにはきかえてリラ
ックして楽しむのだとか。
「山で使うことを意識して、ある
程度耐久性のあるものを選びまし
た。サブだからといって、何でも
いいやということではなく、しっ
かり用途に合わせて選ぶことが大
切です」。

ドライブレな2スタイル

足裏感覚のある薄いソールと、グリップ力もそれなりにある
アウトドアブランドのコンバクトなパツカブルシューズ。
じつはドライビングシューズとしてもかなり秀逸なのだ!

Patagonia

パタゴニア/
アドポケット・ステッチ
価格7245円 関G
コンパクトに収納できる軽量シュー
ズ。ソフトで丈夫なマイクロファイ
バー製のアッパーは側面と中央に伸
縮性バンドを備え、快適なフィット
感を生む。重量:132g (27cm・片足)



HAGLOFS

ホグロフス/ロックレジェンド 価格2万1000円 関H
クライミング機能を高めたアプローチシューズ。抜群のグリップ力を誇るピブラム社製ソールを搭載。薄めのミッドソールが足裏の感覚を敏感に伝える。重量:445g (UK8・片足)

ドライビングシューズに求めら
れる要素とは、ヘダルの微妙な操
作が可能な足裏感覚と、ヘダルの
上で滑らないグリップ力のあるソ
ール。ならばアウトドアブランド
のシューズはドライビングシュー
ズにもってこいではないだろうか。
上のような、携帯性を追求した薄
くて軽いシューズはとくに。履き
心地がよく、足にストレスがかか
らない点も大きな魅力だ。
クルマなのでシビアに装備を切
り詰めなくてもいい。けれど、ド
ライビングシューズをキャンブサ
イトで履くというのも、「こころ」
のような、スタイルを作って楽し
む子どもじみたおもしろさがある。

SHOES + SHOES



Driving Lonely

高橋庄太郎の

アメリカ本土

全 48 州 の 旅



旅人 高橋庄太郎

出版社を退職後、2年間ほど国内外の旅を続けた無職時代を経て、アウトドアライターに。現在の仕事は「山」が中心で、山中でテント泊ばかりを行っているが、海や川でのカヤックの旅なども愛している。著書に「北アルプス テントを背中に山の旅へ」『トレッキング実習学』（ともにエイ出版社）。

3ヶ月にわたる旅の相棒は、フォード・トラス。左ハンドルのこいつとともに3万6000kmを一気に走った。地球1周が約4万kmだから、その9/10だ。ひとりで乗るには大きすぎるほどだったが、そのおかげで走りは安定し、疲れは少なかった。

に秋が近づいてきた。そろそろ本格的に日本から出て行こう。僕は格安の航空券を手に入れ、太平洋を渡ってアメリカに入ることにした。目的はクルマでアメリカの東西を横断し、かつ往復すること。それもできれば北東北西、南東、南西の四隅の州、つまりメイン、ワシントン、フロリダ、カリフォルニアの各州をまわり、「アメリカ一周」とする。せっかく無職になったのだから、たまにはそんな旅もいい。しかし……。この計画はアメリカ1周どころか、最終的には「アメリカ本土・全48州」をぐるりとまわる旅になったのだ。

30歳を過ぎて自分の意思で獲得した自由な時間だ。まずは気が済むまで無職時代を過ごすことにし、好きな場所、憧れていた場所にできるだけ旅することにする。自然の豊かな場所が中心だ。いずれアウトドアライターとして社会復帰をもくろんでいる僕には、たんに面白いだけでなく、今後につながるいい経験になるだろう。梅雨明けと同時に50ccのスーパーカブで大好きな北海道へ向かった。全道をまわりながら2カ月半のテント泊の旅を続け、ついでにサハリンへ。その後、数日かけて四万十川をカヤックで下ったころ

会社を辞めて旅に出た。陳腐な言い回しだが、事実なのだから仕方ない。それは今から10年前の2002年。日韓共催のサッカーワールドカップが開かれていた時期で、僕はそれまで出版社でファクション誌の編集者として働いていた。新人として編集部配属されたまま時が過ぎ、気づくと8年。当初は楽しく、居心地もよい会社だったが、人生のいちばん面白い時期をこのままファクションの世界で使ってしまうことに疑問があった。僕の本来の居場所は、高校の山岳部時代から愛していたアウトドアの世界ではないか。また自分の性格を考えると、フリーランスの仕事が向いていると感じていた。アウトドア系のライターになることを決意し、自分が最後に編集した雑誌の発売日に退社した。

退職と引き換えに得心から自由な時間

